

第 34 回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会意見書概要及び考え方

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1-1	資料1	<p>水質改善や水生植物の保全に水位管理が必要な点は理解できる。1994 年以來、小鳥類の国内の渡りや個体数動態の解析に資する基礎データを得るため、例年上潟で定期的な標識調査(環境省所管・山階鳥類研究所主導)を実施してきた。秋の渡り最盛期(10月中旬～11月上旬)に水位が高いと、捕獲作業が著しく困難となり、場合によっては作業が不可能となります。このため、上潟での水位はこの時期に下げてくださいよう配慮と計画をお願いしたい。</p>	<p>現在水位管理を行っているところは下潟ですが、秋の渡り最盛期(10月中旬～11月上旬)に上潟にも影響がないよう、水位を下げるよう配慮いただくよう関係者へ共有いたします。</p>
2-1	該当なし	<p>2018 年に佐潟の低質調査で、2014～2015 年度の 2 か年にわたり大型機械を用いた浚渫作業後の状況確認及び佐潟下潟の水深、泥層調査を実施した。調査により、浚渫によって掘削された付近の泥は元に戻り、潟全体に泥が堆積していることが判明した。その後、地元と環境政策課によって、水門付近の固い堆積物の除去は終わったが、水門の構造上により、現在このままでは潟の泥を下流に流しきれないことも判明した。</p> <p>さらに、新潟水辺の会が 5 月頃実施した佐潟集落の一等基準点より佐潟水面の水準測量を行った結果、佐潟周辺の標高が 25 cm 下がったことが判明した。佐潟の適切な年間の水位管理の変動幅、60 cm の半分近くの数値で、水位管理の基準の見直しが必要と考える。</p> <p>また、新潟水辺の会と環境政策課職員との協働で行った水門付近の泥層調査では、普段の水門操作の範囲では潟の上水のみ流れ、このままでは水門付近の泥は流れ出ないことも判明した。佐潟の泥を下流の広通川を通じて新川に流す負荷も考慮しなくてはならないが、それ以上に佐潟の水質悪化の元である潟の泥を少しでも流すことで、佐潟の水質環境を変えることができると考える。このことについて協議会全体で考えていくべき大きな問題だ。新潟市の予算処置を待っていても佐潟の水質は良くならない。佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の中で水質に関する部</p>	<p>次回の第35回協議会については対面形式で実施します。</p> <p>水位管理の基準の見直しについては、現在の水位管理の結果、水質状況がどうなったかを確認し、その結果に応じて検討していくことであると考えます。</p> <p>新たに湿地センター前に設置した水位計と以前から水門に設置されている水位計がずれていることについて、新潟水辺の会の加藤様より共有いただいた【追加資料 2】佐潟水門付近調査を共有いたします。</p> <p>水質に関する部会についてですが、次回会議で改めて議題とし、会員の皆様と協議、検討したいと思います。</p>

		<p>会を作り、協議会として環境関連の助成金申請を行い、佐潟の泥をいかに少なくしていくかの具体的行動を伴わなければ、ラムサール条約湿地自治体認証を6年後に返上することになりかねない。</p> <p>コロナが少し収まっている今こそ協議会を書面開催で終わらせるのではなく、ハイブリッド方式による協議会を開催し、協議会全体の問題として問題解決にあたるべきである。</p>	
2-2	該当なし	<p>佐潟下潟の現状はハスやヒシなど水生植物が全く水面に見られなくなっただけでなく、大量のアオコが近年毎年発生している。</p> <p>自治体認証の要件にある水質も、新潟市の中でも水質が悪く「ドブ川と呼ばれた通船川」よりCODなどが、数倍高い状態にある。</p> <p>それらの主原因は、これまでも多くの報告書等で指摘されている、潟周辺の農地からの環境負荷等が、じわじわと佐潟の環境悪化に及んでいると考えるを得ない。</p> <p>佐潟自然環境保全連絡協議会の委員を引き受け、協議会に出たからの感想は、地元の佐潟に関係する委員が少なく、かつそれらの方より協議会での発言があまり聞かれません。もっと地元で生業をしている方(例:葉たばこ農家、葉物野菜栽培者、漬物工場、ハーブ園経営者など)より協議会に入っていたとき、生業と佐潟の環境について、積極的に意見交換と対策を進めない限り、佐潟の再生はおぼつかないものと考えます。佐潟周辺での生業と環境という利害関係者がお互いの意見を言える場が、佐潟周辺自然環境保全連絡協議会と考える。</p> <p>もっと佐潟ブランドを広めながら、いかに佐潟の環境を守っていくのが協議会に問われていると考える。</p> <p>国内初のラムサール条約湿地自治体認証に恥じない新潟市(佐潟)になってもらうため、佐潟周辺で生業している利害関係者の方を協議会委員にする努力がこの委員会の活性化と問題解決につながると考えるため、検討いただきたい。</p>	<p>農業分野に関する地元関係者の参加はご指摘の通り重要です。昨年度の経緯から農業分野に関する地元関係者の方とのやりとりは可能なため、今後協議会のメンバーとしてご協力いただけるよう調整を続けてまいります。</p>